第13分科会　キャリア教育

研究課題

勤労観・職業観を育む キャリア教育の推進と 校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

今日の急激な社会の変化を背景として，子どもたちの将来への不透明さから，子どもたちの進路を巡る環境は大きく変化し，将来に向けて希望あふれる夢を描くことが難しくなって来ている現状が指摘されている。

このような環境変化の中，自立的に自分の未来を切り拓いて生きる，変化に対応する態度の育成が不可欠である。さらに社会の一員として，しっかりとした勤労観，職業観を身に付け，直面する様々な課題に柔軟に対応し，生涯に渡り学び続ける意欲を維持する基盤となる能力として「基礎的・汎用的能力」が示され，より一層のキャリア教育の必要性が叫ばれている。確かな学力，豊かな人間性，健康体力をバランス良く身に付け社会人として自立した人を育てる観点から「キャリア教育」の推進がますます重要となる。

本分科会では，「キャリア教育を推進する具体的方策と教育課程編成における校長のリーダーシップ」「周りとの関わりの中で，責任や勤労の意義を理解・定着させる教育活動の推進と校長のリーダーシップ」の２つの討議の柱を設定し，教職員の意識改革を図り，キャリア教育を教育課程に浸透させる校長のリーダーシップ，学力向上等との関わりや学校種・家庭・地域・関係機関等との連携などについて検討し，具体的方策を明らかにするものである。

Ⅱ　研究発表及び協議

1　研究発表

社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の推進
～家庭・地域との協働による教育活動の推進と校長の在り方～
宗谷地区　礼文町立船泊小学校　坂本　孝行

2　研究の概要

(1)　宗谷の教育の特色

①子どもを取り巻く環境と実態

豊かな自然・産業に恵まれ，広大な土地や海に囲まれた環境で，自然に触れ，社会，働く人に接し生活している。その一方でメディアと接する時間が多く，基本的生活習慣の確立・学習習慣の確立とともに，人との関わり方，自己肯定感・有用感の低さが課題である。

②宗谷の自然と産業

沿岸地区と離島では豊かな水産資源に恵まれ，内陸部は広大な牧草地で酪農が営まれている。また国立公園では直接その豊かな自然に触れることができる。

③地域ぐるみの子育てと小中連携・一貫教育の推進

地域ぐるみの「子育て運動」を展開し，地域・家庭・学校の教育力を相互に高め，子どもの自立を目指す取組を進めたことで，地域行事への参加率が高いものとなった。さらに小中連携し９年間の教育を紡ぐ取組により，子育て運動を後押ししている。

④宗谷校長会の活動

「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子」をテーマに掲げ，

- 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
- 研修活動の充実
- 関係機関・団体との連携　教育諸課題の改善
- 組織強化　活動の強化

を重点に，地域に根ざした信頼される学校を目指す取組を進めている。

(2)　「研究課題」を究明する視点

〈視点１〉　地域の特性を生かす校長の役割
〈視点２〉　豊かな体験活動を推進する体制整備と校長の役割

(3)　宗谷のキャリア教育

①地域の素材を生かす

宗谷管内の各学校では，地域の「産業」，「自然環境」から学ぶ体験活動を教育課程に位置付けている。子どもたちが直接仕事に触れ，働く人に関わる体験活動を通して，地域を深く知り，働く意義を見出すとともに，社会や自然に対する関心を高めると考えている。

〈実践事例〉

ア　枝幸町「鮭燻製づくり」

特産物である鮭を使って，稚魚の放流，地引き網体験，燻製づくりを行うことにより，漁業への関心が高まり，命をいただくことや協力して仕事をすることの大切さを学んでいる。

イ　稚内市・豊富町「酪農体験学習」

外部人材の協力を得て，酪農や地域の自然を学ぶ学習を教育課程に位置付けている。給食で飲んでいる牛乳が作られる実際と日常がつながる体験活動により，身近な仕事への関心，意欲を高めている。

ウ　幌延町・猿払村「自然体験と交流」

幌延町「ワラベンチャー問寒」，猿払村「どろんこ広場」など，豊かな自然に触れ理解を深め大切にする心の育成，人間関係の育成，旺盛な意欲と実践力の育成を目的に地域ぐるみの体験活動が行われている。

校長は，関係機関や校長同士の連携，情報発信により，地域と学校をつなぐ役割を担っている。

②地域の人と“共に創り出す”

豊かな心を育むため価値ある文化を教育活動に位置付けることにより，地域住民に認められ応援されることにより，自尊感情を高め，地域への愛着を形成する機会となっている。

〈実践事例〉

ア　南中ソーラン（稚内）

「全国南中ソーラン交流祭」に，市内全学校が参加し，それぞれ特色ある文化活動を披露することにより，自校の文化に誇りと自信をもち，伝統を受け継ぐ喜びを感じている。

イ　地域行事と文化活動

中頓別町や礼文町での鼓笛パレードや御輿パレード，稚内での小中学校の伝統文化発表など地域行事への積極的な参加により，地域に関わろうとする意欲を高めている。

校長は自ら地域と積極的に関わり，取組の意義を浸透させるとともに，教職員が直接地域と関わる校内体制を整備することにより，地域と共に子どもを育てる環境づくりを進めている。

③学校間で“連携する”

小中連携・一貫教育の推進とともに，キャリア教育を視点とした異校種間のつながりを深め，地域で子どもを育てる関係を創るとともに，子どもたちが安心して学ぶ環境を整えることを目指している。

〈実践事例〉

ア　稚内市宗谷沿岸地区「水産学習」

中学校で行われている「ふるさとに学ぶ産業教育」を見据え，各小学校で小中一貫したキャリア教育に取り組み，命を育む自然と働く人への感謝の気持ちが育まれ，活動への意欲と自信につながっている。

イ　ふるさと学習「礼文学」

小中高一貫したふるさと学習「礼文学」では，発達段階に応じた指導計画を編成し，連携・一貫教育の柱として経営方針に位置付けている。

校長は，各校の実態・課題の交流を深め，礼文教育の改善にあたる組織と体制を整えることにより，教職員の協働と研究活動への主体的な参加につなげている。

(4)　まとめ

①成果

- 教育課程改善の視点の明確化と地域と一体となった特色ある学校づくりの推進
- 自己肯定感・有用感，社会に貢献する意欲の高まりとふるさとへの誇りと愛着
- 地域に根ざした特色ある教育活動の創造
- 地域・保護者との信頼関係醸成と教職員の意欲向上

②課題

- キャリア教育と教育活動のつながりの整理と教育課程の改善
- 課題解決に向けての連携強化と継続
- 教職員の協働の意識向上と指導の改善

3　研究協議

討議の柱１「キャリア教育を推進する具体的方策と教育課程編成における校長のリーダーシップ」

①教職員の意識改革に向け，活動の意義の再確認，ゴール及びそこに至る道筋の可視化など，意図的な取組が必要である。

②キャリアを勤労，職業という狭いイメージで捉え教育課程を狭めることなく，自立するために必要なことと再確認し，全教育課程の中で育てていくことが大切である。

③職業体験イコールキャリア教育ではない。日常の教育活動全てがキャリア教育である。キャリア教育の視点で活動を見直すとともに，基礎的・汎用的能力の考え方をしっかり押さえる必要がある。

④地域の願いをしっかり把握し，職業観の基礎の育成とともに郷土愛を養っていくことが重要である。

⑤キャリア教育の視点に立ったプランの提示で意識改革を図る。また，異校種間の連携では目指す姿の共有化が重要である。

⑥経営方針に明記し，教育課程にしっかり位置付けることが大切である。

討議の柱２「周りとの関わりの中で，責任や勤労の意義を理解・定着させる教育活動の推進と校長のリーダーシップ」

①小中高12年間を見通してねらいを明確にし，共有化を図る。今の活動の見直し，価値付けが必要である。
②異学年の活動を意図的に仕組むことによって，他者との関わりを学ぶ大切な機会となる。
③目的意識を明確にした体験学習の実施，関係機関との連携等全教職員が関わる体制づくりが大切である。
④人間関係形成のスタートは挨拶であり，キャリア教育につながっていく。キャリア教育に対する見方，考え方を共有する小中連携が大事である。
⑤様々な教育活動をキャリア教育の視点で見直す。日常の係活動，委員会活動も職業観につながるものである。

Ⅲ まとめ

1 研究協議から

本日の研究協議で各グループで共有した
① 教職員の意識改革と共有化
② 校長の調整・情報収集
③ キャリア教育のねらいの明確化
→何を身に付けさせたいのか
④ 地域の願いの把握と特色を生かした全教育課程での職業観の基礎の育成→自立心へ
⑤ 幼小中高と連続した意図的な仕組みの整備
⑥ 経営方針へのキャリア教育の明確化
など，しっかりと押さえた上で校長のリーダーシップを発揮する必要がある。

2 今一度自校のキャリア教育を見直す

現在「キャリア教育」で求められている，従前の「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」への質的転換を徐々に行う必要がある。

そのためにまずは，自校のキャリア教育の取組を振り返り，これまでの課題に陥っていないかどうかの点検を進めることからスタートさせることが重要である。

特に，それぞれの学校・地域などの実情や児童の実態を踏まえ，惰性に流されず，「育成しようとする能力の到達目標」を定めてきたか，そうでないかの自己点検が必要である。それぞれの学校に戻り，再点検を行っていく。自校の「キャリア教育」に関わる教育活動を再点検し，自分がそこのところを安易に見ていないかどうか検討することから，初めて校長のリーダーシップを発揮させることができる。

3 次年度に向けて

次年度から全連小大会と分科会も共通になり，「キャリア教育」は，同じ研究領域「教育課題」の11分科会「社会形成能力」に変更，研究課題が，「社会を形成する力の育成を目指す教育活動の推進における校長の在り方」となる。リーダーシップの視点として，
① 社会に貢献する資質・能力・態度の育成を目指す教育活動の推進
② 勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進
となる予定である。

今後のキャリア教育に求められていることは，「社会を形成する能力」だということである。次期学習指導要領の改訂にも謳われているように「どのように社会や世界と関わり，よりよい人生を送るか」というキャリア教育のねらいは今後も重要となり，次年度，「社会を形成する力」として継続されることになる。

宗谷地区のキャリア教育の提言にあった「地域の人と共に創り出し」それを「学校間で連携する」ことを力強いものにしていくことにより，「キャリア教育」で積み上げたものが「社会形成能力」につながっていくのではないかと考える。

4 最後に

私たち校長に求められるのは，何が子どもたちにとって有効かという視点に立ち，地域の特色を見極めるためにアンテナを高くし的確な情報収集につとめることである。そのためには，自分の足でしっかりと歩き，地域のネットワークを築くこと。つまり校長が，キャリア（車道，足跡）をつけることから始まるのではないか。

「第13分科会に参加して」

枝幸町立歌登小学校　**秋　葉　良　之**

今回，提言づくりに携わった一員として，初めて本分科会に参加しました。研究発表では，船泊小の坂本校長が宗谷管内のキャリア教育の取組を「素材を生かす」「共に創り出す」「連携する」をキーワードに提言を行いました。宗谷という地域の〝強み〟を生かした宗谷ならではの実践を紹介することができたのではないかと思います。

その後のグループ協議では，各地区の取組の実際や校長の果たすべき役割について活発な意見交換をさせていただく中で，示唆に富むお話を数多く聞くことができました。とりわけ，協議のまとめで取り上げられた「自校の教育活動をキャリア教育の視点で見直す」という意見に感銘を受けました。ともすれば学校現場は新たな取組をビルドし続け，それらを精選できずに積み重ねてしまうところがありますが，今行っている活動に校長がキャリア教育の〝価値付け〟を行うことで既存の教育活動を一層充実させるという視点は，今後の学校経営に大いに参考になりました。

来年度は宗谷大会。20年ぶりに稚内市で開催されます。皆様の参加を心よりお待ちしております。